



画像診断のはなし

核医学検査

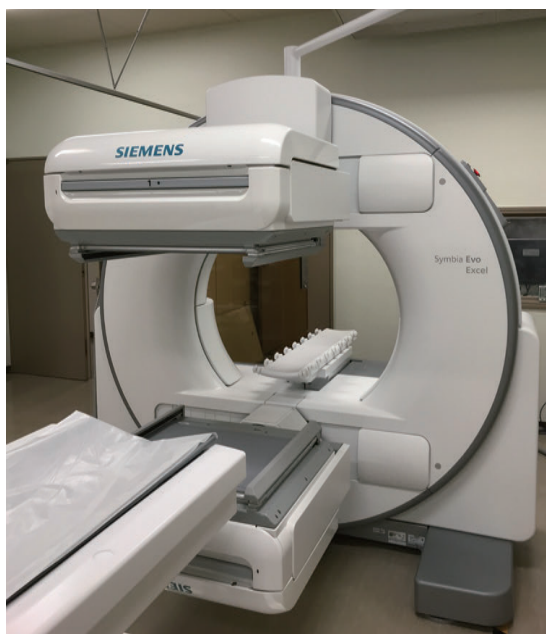
当院の核医学検査装置が2022年11月に最新装置へ更新されました。

導入した装置はシーメンス社製Symbia Evo Excelです。従来の装置から比べると各部分でデジタル化が大きく進み、今まで以上に短い時間で優れた画像を提供できます。

旧装置のシーメンス社製E.cam signatureは2006年12月から2022年10月まで稼働し、その間のべ27,771件の検査を行ってきました。

核医学検査は放射性医薬品（放射線が出る薬品）を注射等で体内に投与し、その分布をカメラで写していく検査です。放射性医薬品にはそれぞれ心臓に集まりやすいもの、骨に集まりやすいもの、脳に集まりやすいものなど様々なものがあり、目的に合わせて薬品を選択します。形態に加え、身体の機能も調べることができる検査となっています。

核医学と聞くと「なんだか怖そう、被ばくして、とんでもないことになる」などと心配することがあるかもしれません。しかし検査をするに当たり、投与する放射性医薬品の量はごくわずかであり、被ばくに関する心配はありません。副作用に関しても、アレルギーやアナフィラキシーショックを起こすような心配はほとんどなく安全な検査です。不安なことに関しては、担当の技師に遠慮なくおたずねください。



新装置導入（↑）と
旧装置搬出（→）の様子

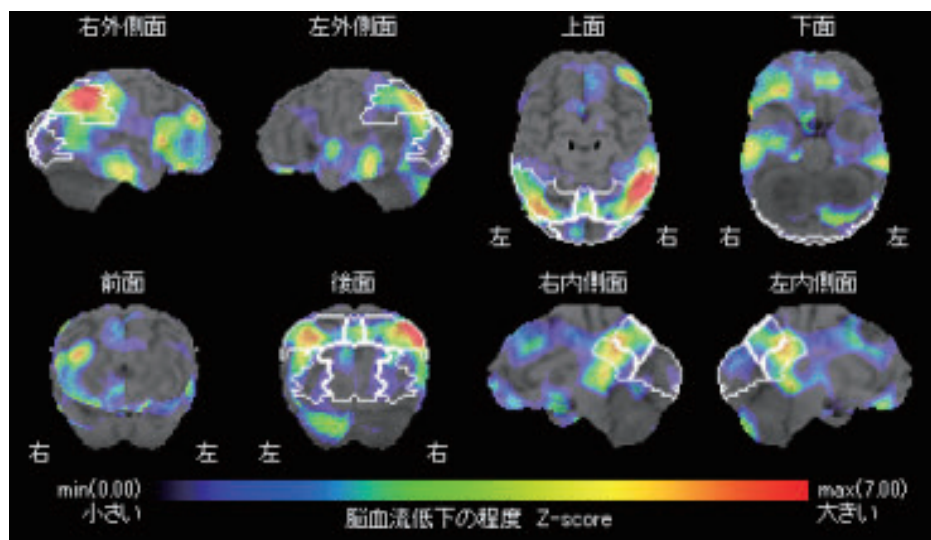


当院では主に心臓の血流を調べる検査、脳の血流を調べる検査、骨の検査、パーキンソン病に対する検査などを行っています。

● ● 心臓の血流を調べる検査は、主に狭心症の検査で行います。装置更新に伴い新しい放射性医薬品の使用を始め、被曝低減と画質向上につなげています。

● ● 脳の血流を調べる検査は主に認知症の検査で行います。認知症の場合、脳の特定の場所で血流が低下することが知られていて、その程度を画像に表します。

下の図は脳の血流を調べた画像になります。この図では赤い部分ほど血流が低下している様子を表した画像になります。



● ● 骨の検査では、骨に腫瘍があるかないか調べることができます。頭頂から足先まで全身の骨が検査可能で、肺がん、乳がんなど、腫瘍が骨に転移しやすい疾患の場合によく行われます。

● ● パーキンソン病に対する検査では、心臓の神経や、脳の線条体を調べることで診断につなげていきます。

この他にも甲状腺や、唾液腺、腎臓、副腎、肺血流など幅広く検査を行っています。

今後もより質の高い検査を提供できるよう精進してまいります。



診療放射線科
主任 前田 晋佑